

25 愛防第 31 号

平成 25 年 5 月 28 日

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 1 号）について（送付）

このことについて、次のとおりお知らせいたしますので、ご参照の上、防除指導方よろしくお願いたします。

記

イシダアワフキのいちごへの寄生確認

平成 25 年 2 月に、宇和島市の施設栽培のいちごの葉柄、花柄の基部を中心に泡状のかたまりが付着しており、中にアワフキムシとみられる幼虫を確認した。九州大学昆虫学研究室の紙谷准教授に同定を依頼したところ、イシダアワフキ *Aphrophora ishidae* Matsumura であることが明らかとなった。農林有害動物・昆虫名鑑 増補改訂版（2006）によると、本種は農作物の害虫としての記録はない。

1. 発生状況

3 月 4 日の発生調査においていちごでの寄生株数は、300 株中 55 株（寄生株率 18.3%）であった。施設周辺部の雑草等のうち寄生が確認されたのは、アメリカフウロ、オオイヌノフグリ、タンポポの 1 種、スギナ、栽培キクの 1 種であり、特にアメリカフウロでの密度が高かった。幼虫は、施設で 2～3 月、露地では 3～5 月に認められ、成虫は、施設で 3 月下旬から、露地では 5 月から認められた。

2. 被害の特徴

幼虫が寄生している葉柄基部の泡巣を取り除いたところ、寄生部位が黒褐色に変色しているのが確認された。ただし、葉の萎縮等の症状は認められないため、草勢に影響することはないものと考えられる。

3. 形態

成虫の体長は雄 9～10.5mm、雌 10～11.5mm。頭部、胸部から前翅にかけて灰褐色～赤褐色。頭部から前胸背にかけての正中線は黄白色で隆起する。

4. 生態

年 1 回の発生で、卵で越冬する。幼虫は、ヤブジラミ、ヨモギ、ヤナギ類等に泡巣を

作り、いずれの場合も茎と葉柄の股に頭部を地上に向けて吸汁する。成虫になると泡巣は形成せず、よく跳躍する。ヤブジラミの場合、主茎の根際に1~2卵、卵頭を外部に出して産付することが知られている。

5. 防除

本種に対する登録薬剤はない。発生が確認された場合には捕殺で対応する。



イシダアワフキ終齢幼虫



イシダアワフキ成虫



いちごでのイシダアワフキ寄生状況



いちごでのイシダアワフキの被害 (矢印)



アメリカフウロでのイシダアワフキ寄生状況



オオイヌノフグリでのイシダアワフキ寄生状況